

## 2. 底生動物調査結果の概要

## 2. 底生動物調査結果の概要

### (1) 確認種数

今回とりまとめを行った25河川で確認された底生動物は、貝などの軟体動物、ミミズなどの環形動物及びエビ類、昆虫類などの節足動物など65目256科約780種です。また、確認種数が多かった河川は、中国地方江の川で347種類、関東地方利根川で252種などでした。

### (2) 特定種の確認種数（資料II.2.1）

今回とりまとめを行った25河川で確認された特定種は、レッドデータブック危急種のタガメなど全部で10種でした。また、特定種の確認種数が多かった河川は、中国地方天神川の3種などでした。

#### (注) 特定種の定義

本資料においては、次のものを特定種としています。

- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・環境庁編（1991）「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種
- ・環境庁編（1976）「緑の国勢調査（第1回自然環境保全調査）」における「すぐれた自然の調査」対象種
- ・環境庁編（1982）「緑の国勢調査（第2回自然環境保全基礎調査）」における「日本の重要な昆虫類」の指標昆虫

### (3) 外来種の確認種数と割合（資料II.2.2）

今回とりまとめを行った25河川で確認された外来種は15種です。

また、現地確認種数に占める外来種の割合が高かった河川は、関東地方中川・綾瀬川の約8.7%などでした。

#### (注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種は、おおそ明治以降に侵入したと考えられる国外由来の動植物を扱い、侵入後に日本で定着した帰化種であるか否かは、判断が困難な種があるため考慮していません。また、外来種の選定は、巻末に添付した文献および学識経験者の意見により行っています。

### (4) スクミリンゴガイ、カワヒバリガイ・コウロエンカワヒバリガイの確認状況（資料II.2.3）

確認状況の概要は、7～8ページに示すとおりです。

### (5) ピワアシエダトビケラ、オオシマトビケラの確認状況（資料II.2.3）

確認状況の概要は、11～12ページに示すとおりです。